

---

# 三題噺「エビ、カキ、イカ」

三木こう

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

三題噺「エビ、カキ、イカ」

### 【Nコード】

N7921U

### 【作者名】

三木こう

### 【あらすじ】

三題噺です。お題は「エビフライ、カキフライ、イカリング」  
ラブコメ？ な内容です。

それは、例えるならばエビフライのように甘美な曲線。

左右の髪の毛を縛り上げ、エビの尾にあたる部分にはリボンでア  
クセント。鼻に乗せられたメガネがさらに彼女の魅力を引き立てる。  
それは、例えるならばカキフライのように栄養満点な楕円。

健康的な肌から伸びた首筋ぐらいの髪の毛は、乱雑に後ろで結え  
られている。楕円を描くポニーテイルがふりふりと動くたびに食べ  
てくださいと自己主張しているようだ。

それは、例えるならばイカリングのような完成された真円。

一切の歪みなく、綺麗に束ねられた左右の髪の毛は真円を描く。  
髪の毛の癖、整髪料との兼ね合い、ドライヤーの使い方、すべてが最高  
水準でマッチしなければ実現しないだろう奇跡の実演。

僕は彼女たちを見るたびに、いつもそんなことを考える。

頭の中はエビとカキとイカで一杯になり、授業の内容も頭に入っ  
てはこない。もうずっとこんな生活を続けている。きっと、イヤラ  
シイ意味なんてなく、彼女たちをおかずに僕はご飯を3杯は食べ干  
すことができるだろう。

「おいしそうだなー」

場合によっては危ない人の発言だった。

時刻は昼過ぎ、なんとか午前中の授業を終え、東の間の昼休み。

僕の視線は一箇所を向いていた。

「エビちゃんのエビフライ、おいしそうだね」

「カキちゃんのだっておいしそうじゃない。わたし、生牡蠣はだめ  
だけど、フライだと食べれるんですね」

「そんなのより、イカフライだよ、イカフライ！ このね、形がい  
いの、形が」

なんの会話だよ、と突っ込みたくなる。

僕の視線の先にいるお三方は、今日も美味しそうに昼食タイムを過ごしていた。脳内での設定だけではなく、彼女らの名前は海鮮類で統一されていた。しかも好物まで自分の名前の海鮮類というのは、親御さんはいったいどんな食生活を彼女らに提供していたのだろうか。まあ、僕の苗字も磯野だから、似たような境遇であるわけだけど。

横目でうらやましそうに彼女たちを見る。

できれば、あんな美しい彼女たちにまざって僕も食事の時間を過ごしたい。けれど、現実には僕の周りには男ばかり。

と思っていたのだが、

「悪い、今日俺昼練だわ、一人で食ってて」

「えっ、まじかよ」

どうやら今日は最近流行りの一人飯らしい。

うなだれながら母親の作った弁当箱を手に取り、今日も野菜多めのおかずなんだろうな、と溜息をついていると、ひそひそとした話し声が聞こえてきた。

「ね、ねえ、磯野君。一人みたいだよ？」

「ど、どうでしょうか？」

「もー、カキちゃんも、エビちゃんもそんなんじやだめだよ。いっちゃえ、いっちゃえー。っていうか、あたしがいいのいいのー」

ただ、最後の方はもはや、ヒソヒソ話じゃなかった。

「ねー、磯野君。一緒に御飯食べよ！ 暇みたいだし、さ。どぞぞぞ」

イカちゃんに連れられる形で、まさかの参入。

三人の机が合わさったスペースの脇に、いそいそとその辺りから借りた椅子で座り込む。

「いや、なんか突然で驚いた」

「ごめんね、磯野君。でもわたしたち、みんなあなたのこと気になつてたり……」

「はわわ、磯野君だ、どうしよ、どうしよ……」

こそばゆい沈黙が辺りに広がっていく。

「もーいいから、食べよ。食べよ。」

イカちゃんに促されて、弁当を開く。残念、今日も僕の食事は白米に、磯辺揚げやら、ほうれん草のソテーなんていう男子高校生的に質素なものだった。

「ごめん、ひとつだけお願いがあるんだ」

「な、なにかな？」

焦ったように、伏し目がちになりながら、エビちゃんが答える。

そんな姿に、僕も心を決めた。

「お弁当のおかず、わけてくれない？」

やっこのことで口にする、溜まりに溜まった願望。

どうしても彼女たちの顔を見るためにチラついた黄金色の誘惑。

何故か彼女たちはぽかーんと呆れたように僕の方を、頬を染めつつ見つめ返していた。

(後書き)

お題は「エビフライ、カキフライ、イカリング」  
カキフライが上手く処理できなかったなーっという感想です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7921u/>

---

三題噺「エビ、カキ、イカ」

2011年10月9日02時59分発行